

6月23日(木) 18:30~

会場：静岡県評会議室



第111回定例研究会

だれでも参加できます

## 韓国型多文化主義の分岐 — 日本との比較の視点から

報告者：安 周永 氏

(常葉大学法学部 講師)

### これからの企画

- ◆ 第112回定例研究会  
韓国映画「明日へ」上映会  
解説：安 周永 氏  
・ 日時…7月21日(木)  
18:15~  
・ 会場…静岡県評会議室
- ◆ 第8回中間総会&記念講演  
「非正規大国」日本の  
雇用と労働  
伍賀 一道 氏  
(金沢大学名誉教授)  
・ 日時…8月6日(土)  
13:00~

### 多文化主義とは？

今まで単一民族国家というイメージが強かった韓国において、外国人が急増している。労働力不足や少子高齢化に対応するために、政府は外国人の受け入れを拡大してきた結果である。このように外国人が増えるなかで、この人々をどのように社会に包摂するのかという問題が重要な社会的課題になっている。今までは、受け入れの外国人に韓国社会へ同化するように強要されてきたが、彼らが出身国の文化や言語を忘れることはまずない。彼らの文化や言語を尊重する上で、韓国社会への適応が求められる。そこで、韓国政府は、2006年から「多文化」という言葉を使いながら、外国人政策の転換を進めた。同化よりも共存への政策転換が試みられたのである。それでは、韓国で両者の文化の共存を目指す多文化主義が定着しているのか。本報告では、現在行われている韓国の多文化政策の実態について説明する。